

# 安寧



境内の紅葉

ホームページアドレス <http://www.himeji-gokoku.jp/>

兵庫縣姫路護國神社報  
 「安寧」第七号  
 発行所 兵庫縣姫路護國神社  
 〒670-0023 姫路市本町一八  
 電話 〇七九一二四一〇八九六  
 安寧(あんねい)：世の中が穏やかで平和なと

## 英霊の言乃葉

### 夢

海軍二等機関兵曹 多田美好命

昭和二十一年六月二十八日  
シンガポール、チャングーにて殉難死  
岐阜県出身 三十三歳

### 遺言

#### 母上

長い間色々御厄介になりました。此の度の件、お國の為に一生懸命働いたのですが、敗戦と云ふ大變動で戦犯人として刑を受ける事になりました。然しお母さんの教へを守り、家の名を辱しめる事は決して致しませんでした事を嬉しく思つて居ります。

大らかな氣持で喜んで國難に殉じて参ります。唯、生前何等の御孝養を尽すことなく、それ計りが心残りです。

どうかお母さん、何時迄もお元氣で幸福にお過し下さいます様お祈りして居ります。

判決のあります前夜、お母さんにおぶつて頂いて川を渡つた夢を見ました。私は随分任せ合せてした。何もかも唯なつかしく、凡て夢の様です。

#### 親思ふ心にまさる親心

今日のおとづれ如何にきくらん

お母さん、私は死んで居りません。何時も何時もお傍に居ります。



# 英靈感謝祭

六十七回目の終戦の日、英靈感謝祭には例年になく多くの人が本殿に参列した。「今年は漸く家族全員で、参列することが出来ました。」と、幼い子供を五人連れられたお父さんとお母さん。このような姿が早く当たり前になってほしいと願う。拜殿に入りきれずに、向拝で正装した青年が拝礼する姿もあった。参拝者は年々、若返っているようにも思える。参加者全員で二礼二拍手一礼を行い、英霊に感謝の気持ちを捧げた。その後、巫女さんの舞が奉納され、「英靈感謝祭は特に案内もしていませんが、近年多くの人が参拝に訪れるようになりました。」と泉宮司が挨拶された。



参拝風景

それほど多くの人が参拝しない。これは、靖國神社と護國神社の結びつきが、あまり知られていないからだと思われる。護國神社の先には靖國神社があり、そしてその先には日本があると、多くの人に理解してもらえない事に切に願う。靖國神社を大事に思う気持ちと同様に、地元護國神社も大事に思いお参りすることが、日本を大事にするということである。

## 英霊顕彰の集い

昨年からはじめた英霊顕彰の集い、午前は電子紙芝居「お父さんへの千羽鶴」、英霊の遺書を紹介する「英霊の言乃葉」。今年は、崇敬奉賛会の若者が「言乃葉」をそれぞれ選びそして朗読した。散華された英霊と同じ年代という事もあり、その姿が多くなったのか、会場内には涙する人の姿も多く見られた。会場内には兵庫県出身の樋口季一郎元陸軍中将と島田勲(しまだあきら)元沖繩県知事のパネル展示もされた。正午に一同で黙祷を捧げ、午前の部は終了。お昼休みは、昭和



若者による英霊の言乃葉



うどんの販売風景



パネル展示



桜林美佐氏 参拝



満員の講演会

四十年代に放映されたタツノコプロのアニメ「決断」を上映。その年代にリアルタイムに見た人から「とても懐かしいかった。」と感想を貰った。また、参集殿前では、霊友会の皆さんによる冷たいぶっかけうどんの販売がなされた。午後の部は特別企画としてジャーナリストの桜林美佐さんをお招きした。桜林さんは、ジャーナリスト以外にテレビ、ラジオでも活躍されている。昨年、夕刊フジで連載された「日本に

自衛隊がいてよかった」が反響を呼び、それをまとめたものが産経新聞社より一冊の本となつて出版された。その本もベストセラーになった。桜林さんは、正式参拝をした後に会場入りされて、講演「国防の

今を考える」で一時間程度のお話を頂き、現在のわが国の国防事情がどうなっているのかの説明と、自衛隊は災害派遣隊ではないという説明や、法律により手足を縛られ隊員の命も守れないことなどの問題提起をされた。その後、休憩を挟み一人語り「拉猛(らもう)に散つた花」の朗読となった。会場は満員となり、皆、桜林さんの語りに吸い込まれていった。拉猛とは、中国雲南省の南でミャンマーとの国境付近にある山深いところで、ここがミャンマーから蒋介石軍に米英の物資が送られてくるのを阻止する日本軍の拠点だった。その守備隊長が姫路野砲部隊出身の金光恵二郎少佐であった。約四十倍の数の敵を百日余り食い止めた。そこで活躍したのは日本軍だけではなかった、一緒にいた十五名の慰安婦達も逃げずに日本軍と一緒に戦った。その人間模様が桜林さんの視点で描かれていて、日本人が忘れていた感覚を呼び起こしてくれるような内容であった。



朗読する桜林美佐氏

参加者からは「なぜか、涙が止まらなくなりました。」(四十代男性)という感想もあった。きっと、日本人が持つているDNAが刺激されたのであろう。

彼だけではない、会場からはすすり泣く声が多く聞こえた。先人達はただただ、戦死したわけではなく、懸命に生きてそして散華されていったことが、桜林さんの話でよく理解出来た。

その後は、女声合唱団とピアノとバイオリンによる「日本を唄う」を奉納。桜林さんも会場と一緒に唄ってくれるという嬉しいハプニングもあり、『海行かば』や『りんごの歌』、『故郷』などが熱唱された。

アンコールに『元寇』を皆で唄い夕刻に閉会した。

帰り際に桜林さんが「まさか、元寇が歌えるとは思わなかった」と、嬉しそうに話された。先人達の領土を守る強い意思を現在に伝えるために、下段に元寇の歌詞を掲載する。

八月十五日訪れてくださった方の感想を紹介します。

※平成二十四年八月十五日は特別な思い出になりました。(四十代男性)

※初めて参加しました。英霊感謝祭に参列出来たことを嬉しく思っています。ありがとうございます。(三十代女性)

※語り継いでいかねばならない大切さを実感しました。(四十代女性)

※『元寇』は歌詞が難しくあの場では、ついていけませんでした。帰ってからインターネットで調べた所、現在の日本に最も相応しい曲だと知り感動しました。(三十代男性)

※明日の日本の為に戦って散華された英霊の方々に感謝の祈りをささげられたことを、ありがたく思い新たな気持ちで明日から生きていきます。(五十代女性)

※桜林さんのお話は、小学生や中学生にも聞かせてあげたいです。私も、何かお役に立ちたいという気持ちになりました。(四十代女性)

※はじめて参加しましたが、とてもよい集いで、時間が経つのがとても早かったです。(五十代男性)



ときたひろし氏 参拝



ときたひろし氏 作・絵本

九月一日、絵本作家の、ときたひろしさんが来姫、正式参拝された。

ときたさんは、絵本『おとうさんへの千羽鶴』(展転社)の作者である。昨年と今年の英霊顕彰の集いでその作品が電子紙芝居として上演された。「前回姫路に来たときは護國神社に立ち寄れずとも残念でしたが、今回は参拝できたことを嬉しく思っています。」と述べられた。

この絵本をお書きになったきっかけをお伺いした所、ときたさんの祖父が、戦死されていたこと、父親が警察官で日頃から皆を見守る仕事をされていたので、祖父達も大きな愛を持って日本の歴史を作って来たのではないかと考えるようになった。ある日、車を運転していると突然、鶴が火の中から出てくるシーンを考えた。たまたま物語になり、自分でも涙したそうである。絵も誰かに習ったわけではなく、自己流で描かれている。来年も英霊顕彰の集いで、ときたさんの作品を上演する予定である。

### 「元寇」

作詞・作曲 永井建子

(一)

四百余州を率る

十万余騎の敵

国難ここに見る 弘安四年夏の頃

なんぞ怖れんわれに 鎌倉男子あり

正義武断の名 一喝して世に示す

(二)

多々良浜辺の戎夷

そはなに蒙古勢

傲慢無礼もの 俱に天を戴かず

いでや進みて忠義に 鍛えし我が腕

ここぞ国のため 日本刀を試しめん

(三)

ころ筑紫の海に

浪おしわけてゆく

ますら猛夫の身 仇を討ち帰らずば

死して護国の鬼と 誓いし箱崎の

神ぞ知ろし召す 大和魂いさぎよし

(四)

天は怒りて海は

逆巻く大浪に

国に仇をなす 十余万の蒙古勢は

底の藻屑と消えて 残るは唯三人

いつしか雲はれて 玄界灘月清し

## 靖國に想うこと

参議院議員 有村 治子



## 戦死者の御霊の前で

「東京では靖國神社、地方にいれば護國神社に参拝」という家庭に育った私は、国難に際し命を捧げられた戦死者の御霊に対して、ごく自然に崇敬の想いを抱いてきました。しかし、その想いが劇的に増したのは、今から十一年前の平成十三年春、比例代表(全国区)での参議院選挙出馬を自民党本部から打診して頂き、準備に駆け回っていた時にある出来事を経験したことによります。当時の内閣支持率は八%、自民党というだけで、どこへ行っても針のむしろでした。国政選挙での戦いなど全く経験のない、被選挙権を得たばかりの三十歳の私は、資金や組織面、日程的にも選挙の準備が追いつかず、あまりのプレッシャーに、押しつぶされそうになっていました。

あと二ヶ月で選挙戦に突入という夕

暮れ、誰もいなくなつた選挙事務所トイレ掃除をしていた私の手を引いて、主人が連れて行ってくれたのが靖國神社でした。途方に暮れて肩を落とし、うなだれて靖國の表参道を歩く私の前で、主人の言葉が淡々と流れます。「僕達はね、たとえこの選挙に結果が出せなくても、路頭に迷うのは、あなたと僕と二人だけでしょ。でもここにいらつしやる英霊は、自分がやられたら、自分の命ばかりか、愛する両親、奥さんや子供、奥さんのお腹の中にいる、まだ顔さえ見たことのない赤ちゃんの命まで危険にさらさなきゃいけない、そんなプレッシャーの中で、魂を奮い立たせて、第一線に赴かれたんだよ。この選挙、たとえ勝てなくても、『お前は世間を騒がせた』って、打ち首にされることもない、さらし首になることもない。かつての戦いであれば、勝者になれなかつた勢力は一族もろとも、命を差し出さねばならなかつた。今でもそんな体制が世界で少なくなない中、負けた者でも生き長らえさせてもらえるのが、民主主義なんだよね。こういう時代に生きていることがどんなに有り難いことか。そんな平和な時代を夢にまで見て、文字通りその礎となられた方々が、ここにいらつしやるんで

しょ。勝つても負けても、命だけは取られることはない。志を高く掲げて、この選挙最後まで歯を食いしばって、こやかに戦い抜こうよ、ね」と。

目に力の入つた笑顔で、私を励まそうと必死になっている主人に、正直なところ当時の私は反応する力もなく、目をのぞき込むのが精一杯でした。当時、結婚して三年目でしたが、実は私の主人は、大陸からマレーシアに渡つて四代となる華人です。マレーシアに生まれ育つた主人の祖父は、父方・母方の二人とも、「華僑経済人」という理由で、先の大戦中に日本軍に連行され、そのまま帰らぬ人になりました。当時の日本軍としては恐らく、東南アジアに広がる華僑ネットワークが戦費や情報を大陸に送ることをおそれ、これを断つ目的があつたのでしよう。マレーシアでパイナップル缶詰工場を営んでいた一族は、戦争によつて大黒柱を亡くし、事業を失い、その後、経済的には没落の一途をたどっていくことになりました。

主人は、日本と交戦した、いわば相手側の戦死者遺族、ということになります。婚約時代に、このことを知らされた私は、以後、近現代史についての歴史観が全く異なるであろう主人の気持ちを慮るようになり、靖國神社について話し合うことを、何となく遠慮してきました。しかし、それが全くの杞憂であることが、私の選挙で初めて分かつたのです。怒鳴られても怪文書を

出されても、途方に暮れる暇もなく、早朝から深夜まで全国を移動し、明るく振る舞い続けようとかくまで前向きな私でしたが、連日のあまりに強い衝撃に、次第に十分な食事や睡眠がとれなくなつていました。どんなに慰め励まして、本番の選挙戦を前に追い詰められ、やせ細つていく妻の姿を見るに見かねた主人は、私を励まそうと最後の望みをかけて、靖國神社に私を連れ出したのです。祖父を日本軍によつて二人とも亡くしている主人が、誰もいない夕暮れに、心して靖國に連れて行ってくれた……この時の「靖國参拝」以来、主人と私は、修羅場を共に生き抜く戦友になつたと感じています。

「祈りの靖國」、イデオロギーにあらず  
自民党選挙対策本部をはじめ、誰からも「泡沫候補」の烙印を押されていた私ですが、それでも四十七都道府県それぞれの地域に、「ありむら」と書いて下さる方がいらつしやり、大方の予想に反して、比例全国区の下から二番目で当選することができました。十一年前、無謀にも一人の主婦として、全国区でたすきをかけ、文字通り知名度ゼロから出発した私の「可能性を買つて」下さつた民意を、心して胸に刻み込んでいます。

私は昭和四十五年生まれ、日本教職員組合(日教組)が学校現場で、強い影響力を持っていた時代に教育を受けた「戦後派世代」です。民主主義は、

私が生まれた時から空気の如く存在していたかのような認識でありました。しかし、自らの可能性はもちろん、人の心も信じられず、極限まで追いつめられる選挙を経験して、「ああ、民主主義って、なんと尊く有り難いものだろう。どれだけ多くの方々の想いと犠牲があつて、平和が創られていることか」と、ほとぼしするような感慨と、感激の想いをもつて、靖國・平和・民主主義をいつくしむようになりました。そして、この事実を痛感するに至った靖國に対する想いを、「普通に育つた戦後派世代」として、選挙区である全国どこに行っても、講演で申し上げるようになりました。右・左のイデオロギー論争に絡めて靖國のことを論じるのではなく、若手政治家として、選挙を通して実感した御霊に対する想いを自らの言葉でお伝えする時、世代や地域・個々の宗教宗派を超えて、一定の説得力を持ち得ることも、確信するようになりました。

### 「国家に忠誠を誓う」ための国籍志願

当選後四年経って、主人が切り出しました。「僕はマレーシア人として、また一族を担う長男として、祖国マレーシアに誇りを持ってほしい、これからもその気持ちに変わりはない。高校を卒業して日本に留学して以来、定食屋の皿洗いや始めた私が日本で受けた差別や経済的ハンデも決して少なくはなかったけど、今や日本在住も二十

年を迎え、日本に住むマレーシア人として国籍による不自由はなく、何とか生きていく自信もある。でもひとたび、配偶者であるあなたが日本の国家機密と向き合う国会議員になった以上は、やはり私が日本の国籍を取り、国家に忠誠を誓って皆さんに安心していただくことも大事なことです」と思う。

初めての選挙で、候補者となった妻に対し、誰よりも先に信任を出したいはずの夫にもかかわらず、日本国籍を持つていなかったばかりに投票できなかった配偶者としての想いと、国益を軸として各国の思惑が錯綜する国際社会の中で、一定の情報を持ち、国家の意思決定に携わる者を隣で見てきた人間ゆえ、「自分が信頼に足る日本国民であること」の重要性を痛感してきたのでしょう。

主人にとつて、日本国籍を志願し日本に帰化するということは、好むと好まざるに関わらず、法律上自動的に、自らを育んだマレーシアの国籍を離脱することになります。年老いた両親や親族全てをマレーシアに残しながらも、以前から日本に骨を埋める覚悟をしていた主人ですが、その想いを目に見えない形で実行し、平成十八年、日本人となりました。主人の主體的な判断とはいえ、熟慮の上相応な決断をしたその想いが伝わってきます。家長として神棚を整え、天を仰いで朝晩拍手を打つ主人の日本に対する愛着と忠誠を感じ取るたびに、国家国民益に奉じる議会

人としての職責の重みに、気持ちを更新たにします。

### 「母の銅像」に勇気を頂いて

現在私には、八歳と二歳の子供がいます。母親とは、命を生み届け、次世代を育て上げる役割を直感的・本能的に学び取っていくものだと思えます。しかし、「仕事と家庭の両立」などという美しい言葉では片付かない、ジェットコースターに乗っているかのような慌ただしい毎日を重ねていると、(今格闘している全国のお母さん達と同様)時に気の遠くなるような子育てに手を焼き、率直なところ、途方に暮れることもあります。

そんな時は静かに靖國神社に向かい、遊就館近くの境内に立つ「母」の銅像の傍らに身を置きます。長女であるうあどけない女の子が右足に寄り添い、左手は小さな男の子の手を引き、腕には乳飲み子を抱えている着物の母親の像です。母の視線からは、夫が生きた証として遺した児を立派に育て上げることが、国家と御霊の尊厳を守ることと自らに言い聞かせ、困難に立ち向かおうとする毅然とした姿勢がにじみ出ています。そこには、夫を戦地に送り、戦中戦後の混乱の中で家を守り、女手一つで子を育てる、凛とした日本の母親の姿があります。

この銅像と向かい合うたび、私は時が経つのも忘れるほどの衝撃を受

けて、ただただ心を添えるのですが、厳然たる事実として、このような遭された身としての「日本のお母さん」が、全国至る所でご苦労されてこられたことを思うと、本当に胸が痛み、政治の使命とは究極的に、何を守ることだろうかと思いを巡らせます。

### 歴史に向き合い未来につなぐ

愛する家族や故郷、日本に想いを馳せて、遙か遠くの戦地で命を捧げられた方々や、一家の大黒柱を失い、戦後乳飲み子を抱えて食いつないでこられたご婦人、お父さんの面影を知らずに寂しい思いをされて育つたご遺族の何とも言いようのない空しさ悔しさについて、平和な時代に生を受けた私達が、その思いを的確に共有することは困難なことです。しかし、美化もせず卑下もせず、歴史に謙虚に向き合い、ご遺族のご苦心や戦争の教訓を受け継いでいくことは、日本の未来に向けて確かな選択を重ね、私達民族の生存可能性を少しでも高めていくための、大事な仕事だと私は思っています。

終戦から七十年近くの歳月を経て、今や国民の約八割が戦後派世代となりました。戦争を知らない私達、団塊ジュニアの世代にも、歴史を伝えるその役割が移ってきていることを痛感しています。

(神道政治連盟国会議員

懇談会 副幹事長)

# 甦れ大和心

兵庫縣姫路護國神社崇敬奉賛会

常任理事

阿比野 剛

あの未曾有の東日本大震災から一年半になりますが、その最悪の状況下に日本人は「絆」を合言葉に素晴らしい行動をとりました。自らを犠牲にしながら、最後まで防災無線放送を止めず、津波に流された南三陸町職員の遠藤未希さんを初め、自衛隊、消防隊、警察官、名もない一般庶民の身を挺した活躍に世界中の人々から賞賛の声が上がりました。また遡って昭和二十年八月二十日、侵攻するソ連軍を前に最後まで電話交換業務を止めず、服毒自決した樺太真岡郵便局の九人の若い女性たち、明治四十三年四月十五日、佐久間勉艇長の命のもと、瀬戸内海での潜航訓練中に浮上出来ず全員が絶命するものの全員が持ち場を離れず、整然として亡くなった海軍第六潜水艇十四名の乗組員たち。日本人本来の資質である気高い精神・道徳性は世界的にも高く評価されています。

そういった反面、近年、社会では信じられないような出来事が日常茶飯事に取り上げられています。昨今では、小中高生によるイジメや自殺等、考えられないような少年犯罪が増加しています。日本人が本来培ってきた道徳・倫理観が戦後教育の変遷、欧米の影響等により失われてきたと推察致します。特に戦後、米占領軍から一方的に押し付けられた日本民族の美質を消し去る占領政策が強い言論統制の下で強行され、「修身・歴史・地理」は教えるはならないと命令され、民主教育の徹底という名のもとに変えられました。いわゆる戦後憲法（占領基本法と呼ぶべき）や教育基本法などは、戦前から培われた「教育勅語・近代歴史・地政学」を全く無視するものです。根本的には是正するには日本の文化・伝統を振り返り、日本民族の美徳・価値観を取り戻す「大和心の教育」が必要であると思います。わが国の貴重な心の文化、魂の

文化の秘められた宝庫である「日本神話」によりますと日本古来の伝統的な二つの生き方があります。一つは汝が楽しいという生き方で

「あなたが楽しいと思ってくださることが私の喜びです。」と他の人の楽しみを思いやる生き方をすればこちらも不思議に榮えていく。

二つ目は汝が幸いという生き方です。他の人の幸せを望み、「何か私でお役に立てることがあれば嬉しい。」と思つて行動する。「あなたに幸せに思つて頂けるために私は何をどうしましょうか?」といつも相手のことを氣遣つて生きる。ともに「お先にどうぞと譲る精神」であり天地を貫く幸せの原理です。

その結果、聖徳太子の十七条憲法にある「和を以つて貴しと為す」という姿が理想とされるようになりました。日本人の無限の叡智、明るい情熱的な慈愛を持つて「競争原理がすべてではない。人々の共存共栄を図っていく。」という素晴らしい日本の伝統を活かせるように先人の遺徳を称え偲び、崇敬奉賛会が日本の伝統と地域社会の発展のために少しでもお役に立てればと願っています。

(阿比野建設株式会社 代表取締役社長)

## 兵庫縣姫路護國神社

### 崇敬奉賛会会員募集

日本のために戦ってくれた

英霊を大事にしたいと思う人

先祖を敬う心を持っている人

見えないものを受け継いで

いきたいと思う人

奉賛会に入会して神社を

支えて下さい

我々と共に英霊に感謝し

そして汗をかき、

涙を流しましょう

#### 崇敬奉賛会事務局

〒650-0033

兵庫縣姫路市本町二一八

電話〇七九一二四一〇八九六

## 立派な日本人たれ

兵庫縣姫路護國神社崇敬奉賛会

法人会員 坂上明憲

「立派な日本人」とは挨拶・礼儀・親孝行が出来、人に尽くし感謝出来る人間、そして立派な日本人になろうと努力する人である。こんな言葉に出会った。当たり前の事だが目からうろこの思いであった。戦後教育で育った人間が日本を意識した瞬間だった、と今にして思っている。

その後、日本という国を強く意識して学ぶようになった。思い返せば中学三年生の時に東京オリンピックが開催された。昭和三十九年といえば敗戦から十九年、猛スピードの復興である。日本中が湧いた。戦争には敗れはしたが経済では負けないぞ、エコノミックアニマルそんな言葉が躍った時代、日本中が経済至上主義に突入し右肩上がりの経済成長のなかで失われていった「日本人の心」よく言われる事である。確かにそういう部分が多分にあると思うが、しかし本当に失われたのだろうか。私

はそうは思わない。

今年もロンドンでオリンピック記録である。選手たちも日の丸を意識し、自国の誇りをかけて練習に励んだ結果だと素直に思う。しかし、金メダルの数にいくばくの不満があるのは私だけだろうか。選手ももちろんそう思っているようだった。金メダルを目指した人は皆悔しさをにじませている。銀メダルでも悔しい。そう、やはり一番がいい。二番よりいいのは当たり前なのである。特にオリンピックは一番上に立ち、「君が代」が演奏され、誇りを感じる一瞬だ。なぜか涙まで出てくる。これこそ国家を意識している表われだろう。次回のブラジル大会の健闘を祈りたいものである。

私は八月十五日には靖國神社に参拝するようになった。日本人として今を平和に豊かに過ごせるのは、国の為に戦い犠牲になられた

英霊に感謝を捧げるのが日本人として当然の事と想ったからである。昇殿参拝後、遊就館に初めて入館した時の衝撃は今も忘れない。特攻隊の展示物に涙しながら、ふつふつと湧いてくる日本人としての誇りは今までに感じたことのない思いであった。

大東亜戦争までの栄光に満ちた歴史、特に日本海海戦のビデオは、「坂の上の雲」そのものであった。思えば国の為に戦った人達の英霊に国家のリーダーが参拝しないそんな国が立派な国になるだろうか。国家間の問題ではない、自分の心で決めて静かに感謝の誠を捧げる、そんなリーダーの出現が必ずあると信じる。

一昨年八月十五日早朝、母親が八十五才の生涯を閉じた。大正十五年に生まれ戦争を経験し苦勞のしわが顔にいつぱい、それでもいつもニコニコと笑顔をたやまず孫たちに慕われた母。私にとっては世界一の母の死。いろいろな事が走馬灯のように頭をよぎる。子供の頃遊んだ山や川、桜の下ではおぼったおふくろの味。ふるさと姫路は私達家族の思い出づくりに最高の場であった。霊峰書写山、天下の名城白鷺城、北に

美しい山々、南にはおだやかな播磨灘、脈々と流れる川々、そして手柄山等々。早くに亡くなった父親の分まで長生きしてもらって楽しんでもらいたいと思っていた矢先の出来事だった。覚悟はある程度していたがづらい。親孝行していたつもりでも心残りはある。やはり親孝行は大切だと社員には力説している。

そんな事があり八月十五日は姫路護國神社にお参りさせて頂いた。本殿に入り英霊感謝祭にて参拝。また違った感覚だ。その後、参集殿にて英霊顯彰の集いに参加。国歌斉唱で開会。すばらしい皆様の語りに目頭が熱くなる。そして今年はや一つ「拉孟の戦い」を知った。悲しい戦いだが誇りをかけての戦いである。この日本をどうしても一流国として子や孫たちの時代に残したいと強く思った一日だった。

歴史を奪うとその国家は滅ぶという。正しい歴史を学び、一人一人が正しく生きれば、この日本は必ず又昔のような誇り高き国に甦ると信じている。改めて心に刻みみたい。

「立派な日本人たれ」

（坂上建設株式会社 代表取締役社長

姫路経営者漁火会 会長

# 日誌抄

二十四年七月  
二十四年十一月

- 平成二十四年
  - 七月二十九日 淡交会青年部茶会会館で開催
  - 七月三十日 兵庫県神社庁古事記講演会西宮神社へ出向
  - 八月二日 兵庫県神社庁但馬地区現任神職研修会豊岡市へ出向
  - 八月四日 英霊に答える会参拝
  - 八月六日 西播地区現任神職研修会七日まで
  - 八月九日 兵庫県神社庁東播地区現任神職研修会三木市へ出向
  - 八月十一日 神社保育連合会正式参拝
  - 八月十五日 英霊感謝祭 記事参照
  - 八月十八日 霊友会夏祭り 境内
  - 八月二十日 兵庫県神社庁大麻嶺布モテル支部会神戸市へ出向
  - 八月二十一日 兵庫県神社庁古事記講座総社へ出向
  - 八月二十三日 兵庫県神社庁三地区協議員会赤穂へ出向
  - 八月二十五日 日本会議兵庫県本部中西播磨支部総会
  - 八月二十七日 兵庫県神社庁役員会神戸市へ出向
  - 八月二十九日 崇敬奉賛会運営委員会開催
  - 九月二日 兵庫県神社関係者大会(城崎へ出向)
  - 九月四日 全国護國神社会幹事会、靖国神社へ出向
  - 九月五日 スローフードな緑日開催
  - 九月七日 兵庫県神社庁姫路支部役員会・総会
  - 九月十一日 九十四ルソン会正式参拝
  - 九月十三日 自衛隊近畿本部長会正式参拝
  - 九月二十日 兵庫県神社庁役員会神戸市へ出向
  - 九月二十六日 野里小川掃除に参加
  - 九月三十日 本田商店美酔会祈願祭
  - 十月五日 兵庫県傷痍軍人会六十周年記念大会神戸市へ出向
  - 十月六日 日本会議講演会
  - 十月十日 神社本庁評議員会東京へ出向
  - 十月十一日 兵庫県神社庁大麻嶺布祭 宮司齋主神戸市へ出向
  - 十月十七日 崇敬奉賛会運営委員会開催
  - 十月十八日 神戸長田神社例祭参列
  - 十月二十二日 竹田信安氏講演会議所出向 兵庫県神社庁役員会神戸市へ出向
  - 十月二十三日 佐用町徳久地区慰霊祭
  - 十月三十日 兵庫県神社庁姫路支部主催手柄山慰霊祭参列
  - 十一月一日 全国調停協会功労者表彰を宮司受賞 奈良県へ
  - 十一月二日 大阪河南町遺族会参拝
  - 秋季大祭

## 正月神前献灯のご案内

護國神社では毎年お正月に際し、有志の方々からのご奉賛によりご神前に献灯申し上げ、尊い命を捧げられた御神霊のみこころをお偲びし、またその年の一年の無事をお祈りいたしております。

一灯でも多くの提灯で神の庭を明るく照らし護國の神様とともに、心穏やかに、心安らかに新しい年を迎えられますよう、正月神前献灯をお申込下さい。

〒670-0012 兵庫県姫路市本町118 電話 079-224-0896

<http://www.himeji-gokoku.jp/>



Shirasaginomiya

### 美しい白鷺宮の

# 結婚式

一日一組限定

## 「和」の邸宅ウェディング

奉賛会会員様限定特典

1. 衣裳2点目 **20%OFF**  
たとえば10万円の衣裳が8万円! ワンランク上の衣裳に!!
2. モーニング、留袖レンタル **20%OFF**
3. ウェディング生ケーキプレゼント

TEL. 079-224-0559

婚礼受付相談室

受付時間 10:00 ~ 17:00 (火曜定休)

E-mail. [info@shirasaginomiya.com](mailto:info@shirasaginomiya.com)

無料相談会開催中\*予約制

※詳しくは婚礼専用HPにて

<http://www.shirasaginomiya.com/>